



季節を知ったら
暮らしが楽しくなった

〔第十一号〕

小満

五月二十一日



弥栄のマツ

第二次の御木曳行事が始まりました。週末になると賑やかな掛け声や御木曳車のワゴン鳴りが響いています。約一万本を数える御用材の中でも、外宮・内宮の社殿の側面に立つ棟持柱は重要視され、その木を曳くことは伊勢の人々にとって大変な名誉とされています。

先日、内宮の棟持柱を大湊奉曳団が「陸曳」しました。五十鈴川と宮川の河口にある大湊はかつて神宮の貯木場があったところ。木曾の山で伐採された御用材は木曾川、伊勢湾を渡り、大湊で一旦留まりました。そうした役割を担っていた町には棟持柱奉曳の栄誉が与えられています。

その大湊の八幡宮前の広場に樹齢四百年というクロマツがあります。幹回り三mあまり、樹高十m。「弥栄の松」という名にふさわしく、老木でありながら傘のように姿良く枝を広げています。

白砂青松、日本人が好きな風景は、海岸の砂防や防潮のために植林されたクロマツが欠かせません。松林は、先頭のクロマツが風除けとなって、次のクロマツを育て、さらに次のマツが前のマツの助けを借りて育ちます。そのため海浜のクロマツ林は陸に入るにつれて、背の高い木になります。海岸のクロマツは人々が海岸を守るために苦勞して植えた特別な木なのです。

百年前の大湊の写真を見ると、貯木場には材木が浮かび、その背景の岸には大きく育ったクロマツ林が映っています。大湊の港を守っていたクロマツ。「弥栄の松」もおそらくその中の一本だったのでしよう。

今はクロマツの花の季節。新芽が伸びた枝先に小さな花をつけています。

文 千種清美

